

令和4年度 東京都立桜町高等学校経営報告（定時制課程）

I 主な取組みと自己評価

1 学習指導

授業開始直後に反復暗唱などの作業を入れ、学習の定着を図る。生徒の興味・関心を高めるために、ICT機器を活用した教材を提示したり、タブレットを使用した授業展開を始めた。生徒の学力に応じた個別指導を授業内で実施し、各生徒の理解度に即した学習促進を図った。3修制利用で4名の卒業を確保した。

2 進路指導

入学時から自己の在り方や生き方を考えさせるキャリア教育を教科「人間と社会」や総合的な探究の時間で行い、生徒の進路希望が実現できるように努めている。「進路だより」を年3回発行し、全校生徒を対象にした上級学校訪問と進路説明会を実施した。求人票や上級学校の情報の閲覧は、掲示板の利用を含め工夫を凝らしている。三修制を希望している生徒への高卒認定試験の出願指導、就職を希望している生徒への面接指導等を組織的に行っている。

3 生活指導

情報共有に基づいた生徒指導を実施するために、生徒情報交換会や校内研修、教員打合せ等を有効に活用している。養護教諭やスクールカウンセラーへの生徒からの相談にも組織的な対応をしている。スクールカウンセラーによる全学年全員面接、1年生の構成的グループエンカウンター（年2回）、2・3・4年生の「心の健康教室」（各学年とも年3回）を継続して実施している。更に、特別支援教育心理士の活用に取り組むことができた。支援を必要とする生徒に対して、保護者の理解を得ながら適切な対応をすることができた。生徒のいじめ件数0件と教師による体罰0件を継続しており、落ち着いた学習環境を維持している。

4 特別活動

年間を通した生徒の行事参加率は84%と高い数値を維持している。特別活動の充実により、生徒の学校への帰属意識を高めている。校外作品学習では、中学校までに作品を鑑賞する経験が少ない生徒達にとって非常に有意義な行事となっている。学期末に実施したスポーツ大会では、生徒が積極的に企画・運営し、全学年の混成チームによる多様な種目の対抗戦を行った。部活動の加入率は115.3%であった。特に、バレーボール部が様々な工夫をして活動している。

5 地域連携

地域商店街の4月のイベントで清掃活動、9月のイベントでは運営補助、10月には地域清掃を実施。

6 広報活動

平成31年度からの取組みとして全教員による中学校訪問を継続して実施している。全ての世田谷区立中学校をはじめ、目黒区、町田市等の中学校を教員が訪問し、本校の特徴を説明し、中学校教員からの進路相談を受けている。世田谷区教育支援センターの進路説明会に2回参加し、不登校の中学生や保護者に対してスライド資料を用いた説明を行った。また、本校在校生の体験談は、中学生にも保護者にも大変好評であった。ホームページ更新は年間で100回。学校広報紙「さくらまち」は年3回発行。

7 健康づくり

定期健康診断を全員に実施。その後の受診結果に基づく受診対象者は全員治療済み。いじめ・体罰の早期発見・対応に努め、大きな事故に至ることはなかった。学期当初の全生徒の欠席状況把握はできており、その後の学校生活において生命に関わる案件はない。適宜SCと教員の研修を実施し、生徒の心的問題の解消に努める。

8 学校運営

企画調整会議の案件整理・進行、職員会議にて全体周知確認・最終判断の流れが円滑。各教職員のライフ・ワークバランスを意識した校務への取り組みは進み、各自が校務達成のための時間管理がほぼできている。各分掌・学年からの予算執行状況は、経営企画室職員・教員間での調整の結果、支障がない程度に進む。

9 デジタル技術を活用した教育の推進

オンライン学習や調べ物学習等、タブレット端末等を活用した授業展開や Temas を活用した健康観察報告等教育活動のさまざまな場面で、ICT 活用が始まる。教員は成績処理や出欠管理のデジタル化が進み、適宜操作研修を実施。

II 次年度以降の対応策

1 学習指導

落ち着いた学習環境を維持していくために、授業の取り組み方についての指導を継続し、授業規律の確立を図る。多様な生活歴や学習歴をもつ生徒達の基礎学力の向上、資格取得の支援等を目的とした課題・補習・講習等による指導を継続していく。オンラインでの実施を含む他校の授業公開や研究協議会に教員が積極的に参加することで、新たな指導方法や指導技術等を本校の教育に還元していくことを目指す。オンライン教育の充実のために、ICT機器の活用や指導教材の開発等を継続していく。

2 進路指導

教科「人間と社会」や総合的な探究の時間を担当している教員で情報共有を行い、有機的に連携したキャリア教育を目指す。「進路だより」で生徒に提供する進路情報の精選を行い、全校生徒に有益な情報提供に努めていく。上級学校訪問では訪問校を工夫して、生徒の多様な進路希望にこたえていく。進路説明会を充実させるとともに、三修制を希望している生徒への高卒認定試験や各種検定試験の出願指導、就職希望の生徒への面接指導等を組織的に行っていく。教員の知識・技術の蓄積と継承の充実を目指す。生徒全員が卒業までに進路を決定できるよう、1・2年次からの進路指導を充実していく。

3 生活指導

生徒の様子を正確に把握し、教員間で必要な情報共有を行い、スクールカウンセラーを含めた組織的な生徒指導を継続していく。スクールカウンセラーによる全学年全員面接、1年生の構成的グループエンカウンター（年2回）、2・3・4年生の「心の健康教室」（各学年とも年3回）を継続していく。生徒情報交換会、校内研修、教員打合せ等で生徒指導に必要な情報を共有し、指導の過程を検証し、今後の方針等を協議していく。生徒の変化を見逃さないことに努め、生徒アンケートを活用しながら、生徒のいじめ件数0件と教師による体罰0件を継続していく。生徒の自己指導能力を向上させる指導を充実していく。

4 特別活動

卒業後に社会で生きていくための基礎を養うために、生徒に様々な特別活動を計画的に経験させていく。部活動の加入率を向上させ、活気のある学校を目指す。日本語・日本文化研究部の活動を充実させ、外国にルーツを持つ生徒の学力向上との相乗効果を図っていく。健康講話「食」で食の重要性を理解させる食育を行い、給食の喫食率の向上を目指す。

5 地域連携

地域商店街のイベントの他に、さらに地域自治会の活動も検討する。

6 広報活動

全教員による世田谷区を中心とした中学校訪問を継続していくことで、入学希望者の増加を目指す。学校の

様々な取組みを入学希望者と保護者に具体的に説明するために、都立高校紹介フォーラムや合同説明会に積極的に参加していく。世田谷区教育支援センターでの進路説明会や青少年交流センターの地域懇談会にも継続的に参加し、本校の教育の特徴を多くの人に理解してもらう機会とする。

7 健康づくり

定期健康診断の全員受診と、その後の受診結果に基づく受診対象者は全員治療完治を目指す。生徒の心的問題等悩み事の早期発見・早期対応に努める。生徒理解を深める研修を適宜実施。

8 学校運営

企画調整会議・職員会議の円滑な運営を維持する。教員間のコミュニケーションを図り、各教職員のライフ・ワークバランスを意識した校務への取り組みは進め、各自の校務達成のための時間管理意識を高める。各分掌・学年からの予算執行が経営企画室職員・教員間での調整で、円滑に進むよう努める。

9 デジタル技術を活用した教育の推進

タブレット端末等を活用した教育活動を推進する。教員には、適宜操作研修を提供する。

III 数値目標とその達成度

今年度取組目標と方策（数値目標）		達成度
1 学習指導	(1) 年度末の各科目の評定平均 3.0以上	3.6
2 進路指導	(1) 全教員でケース会議 年3回	3回
3 生活指導	(1) 全生徒「遅刻0の日」 年間3回	0回
4 特別活動	(1) 学校行事参加率 90%以上	84%
5 地域連携	(1) 地域自治体等の活動に参加 2回以上	2回
6 広報活動	(1) ホームページの更新回数 年間で100回以上	100回
7 健康づくり	(1) 年間のいじめ案件 0件	0件
8 学校運営	(1) 服務事故等学校運営上の課題 0件	0件
9 デジタル技術を活用した教育の推進	(1) ICT 機器活用による授業研究協議（各教科で実施） 年2回	3回

今年度取組目標と方策（数値目標）		達成度
1 学習指導	(1) 年度末の各科目の評定平均 3.0以上	3.6
2 進路指導	(1) 全教員でケース会議 年3回	3回
3 生活指導	(1) 全生徒「遅刻0の日」 年間3回	0回
4 特別活動	(1) 学校行事参加率 90%以上	84%
5 地域連携	(1) 地域自治体等の活動に参加 2回以上	2回
6 広報活動	(1) ホームページの更新回数 年	100回

	間で100回以上	
7 健康づくり	(1) 年間のいじめ案件 0件	0件
8 学校運営	(1) 服務事故等学校運営上の課題 0件	0件
9 デジタル技術を活用した教育の推進	(1) ICT機器活用による授業研究 協議(各教科で実施) 年2回	3回